



仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の元気な情報を掲載！～

Vol. 1

平成 23 年 4 月 28 日

【発行】

宮城県仙台地方振興事務所

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。この仙台・宮城元気ニュースは、宮城県の復興を目指す皆さまに少しでも元気になっていただけるよう、仙台地域の明るい話題や元気な人の情報を発信していきます。

営業再開した主な施設

□■仙台市八木山動物公園

午前 9 時～午後 4 時 46 分、入園は 16 時まで。電話 022-229-0631

ひとつ：地震のストレスで体調を崩していた動物たちも「無事に回復し、元気を取り戻しています！」

□■仙台市天文台（仙台市）

電話 022-391-1300

□■塩釜水産物仲卸市場（塩竈市）

電話 022-362-5518

□■東北歴史博物館（多賀城市）

電話 022-368-0106

□■観瀾亭（松島町） 4 月 29 日～

電話 022-354-2263

観瀾亭外からの観覧となります。（亭内と松島博物館はご覧いただけません）

□■みちのく伊達政宗歴史館（松島町）

電話 022-354-4131

□■松島十二支記念館（松島町）

電話 022-290-7311

□■松島さかな市場（松島町）

電話 022-353-2318

□■松島湾内遊覧船（松島町、塩竈市）

松島島巡り観光船企業組合 4 月 29 日～

連絡先 mail:g.hiroba@matsushima.or.jp

丸文松島汽船 5 月 1 日～

電話 022-365-3611

イベント情報

□■がんばろう塩竈・塩竈復興市

毎週土日開催予定、午前 9 時～午後 3 時

場所：マリンロードしおかぜ

□■ゆりあげ港朝市

毎週日開催、午前 6 時～午前 10 時

場所：イオンモール名取エアリ敷地内

□■ローズガーデン震災復興祭

4 月 29 日/30 日 5 月 1 日

午前 10 時～午後 4 時、電話 022-376-1187

場所：仙台ローズガーデン

ひとつ：「露天販売・切り花・鉢物販売・ガーベラの採花体験・くじ引き」を行います！

(1) 各地で高まる復興に向けた機運！

松島のシンボルでもある「瑞巖寺（ずいがんじ）」「円通院」「五大堂」は、4 月 10 日に拝観を再開し、少しずつ観光客の皆さまをお迎えする準備が進んでいます。4 月 29 日には松島湾内の島をめぐる遊覧船もスタートし、観光を通じて「東北復興の先導役になろう」という機運も生まれています。

また、仙台市では「仙台七夕まつり」の開催に向け、準備を進めています。関係者は「こんな時だからこそ、盛り上げたい」「復興と鎮魂の意味を持たせた祭りにしたい」とイベント開催への意欲を見せています。

(2) マリンピア松島水族館再開！

マリンピア松島水族館には、水族館のファンだという子どもたちから応援の手紙が数多く届きました。教育機関等からは、遠足で行きたいが、いつ復旧するのかという問い合わせも寄せられました。

同館は、津波で 1 階が 1m 以上浸水し、循環ポンプの破損によって、マンボウが死亡するなどし、復旧への道のりは簡単なものではありませんでしたが、スタッフ一丸となり清掃や補修作業にあたり、目標であった 4 月 23 日に無事、営業を再開することができました。

マリンピア松島水族館（松島町）

平日午前 9～午後 5 時、土日祝午前 9 時～午後 5 時半。入館は閉館 30 分前まで。

電話 022-354-2020

(3) 塩釜市魚市場で水揚げの再開！

塩釜市魚市場では水揚げの早期再開に向けた水揚施設の応急復旧が行われ、4 月 4 日から陸送物の上場を再開し、4 月 14 日からは漁船の水揚げが再開されました。

4 月 14 日に水揚げしたのは大分県船籍の第 18 宝陽丸（77 トン）。マリアナ諸島東方で、漁獲したメバチマグロなど約 800 本の生鮮マグロが水揚げされました。震災後約 1 ヶ月ぶりの水揚げに市場は買受人の声が高らかに響きわたり、久しぶりに活気づきました。価格は通常より高めの 1 キロ当たり 5800 円の値がついたものもあり、これからも順調に水揚げが行われる予定です。



(4) 地震なんかには負けないぞ、亶理町の農家レストラン再開！

亶理町で農家レストラン「旬菜館」を運営する南部ひろみさんは、地場産の旬な食材を生かした食事を提供し、亶理地域の農産物 PR に寄与してきました。

地震の時は買い出しの途中でしたが、大きな揺れを感じて大急ぎで戻

てみると店内は棚が倒れたり食器が飛散していたりと大きな被害を受けていました。幸い、津波の浸水はなかったものの、停電、断水で営業休止を余儀なくされました。

家族・パートの方々は無事でしたが、親戚・パート等には津波で家屋を流された方もおり一時避難を受入れるとともに、仕入れていた食材をプロパンガスで調理して近所の方々に配りました。

正直なところ、再開の目処が立たず、店をたたもうと何回も考えましたが、地元のお客様や取引先から「がんばって」、「再開して欲しい」といった声が多く寄せられ、それに元気づけられて再開を決意し、家族・パートの方たちと力を合わせ、4月12日の営業再開に漕ぎつけました。

地元の方々にも協力をいただき、地場産食材を調達して、震災前と同じメニューを提供しています。お客様の顔を見ると「正直、ほっとする」と南部さん。復旧に係わる方が食事に訪れる機会も増えてきましたが、客足は激減。「互理で頑張っている姿を見て欲しい。ぜひ食事においで下さい。」と笑顔でお話し頂きました。

営業は不定休ですので、お問い合わせの上おいで下さい。【問い合わせ先】TEL. 0223-34-6287



(5) 津波に負けず咲き続ける名取のカーネーション！

名取市は、東北一のカーネーション産地として、昭和40年代からカーネーション栽培を行ってきました。名取市小塚原地区では8名の生産者が意欲的に取り組んできましたが、東日本大震災で自宅、農業用施設とも津波の壊滅的な被害を受けました。

地震が発生した3月11日は、お彼岸向けにカーネーション出荷量が増え始めた時期でした。また、3月の卒業シーズン、4月の入学シーズン、5月の母の日に向けて出荷量が増えていく予定でした。

しかし、予想をはるかに超える大津波により、パイプハウスはすべて倒壊し、鉄骨ハウスの入り口を押し破って瓦礫や乗用車が流れ込むなど目を疑うほどの被害状況でした。

震災後は、8名とも親類や避難所に身を寄せていましたが、徐々に自宅の片付けなどできるようになり、今後の営農再開を考えられるようになりました。一時は、小塚原のカーネーションは復興できないのではないかと誰もが思いましたが、津波で海水や土砂をかぶったカーネーションは枯れずに次々と新しい芽を出しており、その耐塩性に驚き、生命力の強さに生産者は励まされました。

施設、機械、運転資金などこれからの課題は山積していますが、残ったハウスの土壌を除塩し、また、カーネーションを作付けできるように皆で頑張っていこうと気運が高まっています。

残っているカーネーションを譲ってほしいという消費者からの要望、また、閉上地域で命を落とされた多くの方々を花で飾って弔いたいという声もあり、ハウスに残っているカーネーションを花束にしてスーパーの店舗や閉上朝市などで直売を始めました。母の日に向けては秋田県の業者から4000本の注文があり、復興に向けた様々な取り組みを始めていこうとしています。



(6) 仙台東部地域の水稲作付けに向けて、仙台堀用水路の応急復旧工事に着手！

仙台市東部地域の霞の目雨水幹線西側地域の今年度の水稲作付けを行うため、仙台堀用水路の応急復旧工事を仙台市が行っています。

地震により仙台堀用水路が崩落し、農業用水が流せない状況となっていたことから、宮城県及び東北農政局と仙台市で調整を行い、代かき用水時期に間に合うよう災害査定の前に工事着手しています。

4月18日～4月30日までに応急復旧工事を行い、5月1日から農業用水の試験通水、5月15日から本格通水を行う計画となっております。

5月末には、仙台東部地域の農業の復興に向けた第一歩となる田植えが行われこととなります。



◇編集後記

これからも定期的に「仙台・宮城元気ニュース」を発行していきますので、読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております。お問い合わせ（仙台地方振興事務所 地方振興部 電話 022-275-9140, 担当：鈴木、高橋）